

コミュニティしんぶん

宮海海岸の漂着ごみ清掃 酒東2年生が180キログラム集める

酒田東高等学校(大山慎一校長、生徒数491人)の2年生152人が5月25日、酒田市の宮海海水浴場を清掃した。現2年生は昨年、海の漂流ごみが生物に与える影響を、総合的な探究の時間に学んだことから実施した。

ジャージ姿の生徒たちはトングを手に、汗ばむ陽気となった正午前から漂着ごみを拾った。30分ほどで可燃ごみ約150キログラムと、不燃ごみ約30キログラムが集まった。ペットボトルやプラスチック片、発泡スチロール片、

ガラス瓶、空き缶などが目立ち、中には注射器や100円ライターなどの危険物もあった。

佐藤里々穂さんは「流木に絡まっていたり、砂に埋もれていたりにして、拾うのが難しいごみも多かった。漂着ごみを減らすためには、しっかり分別して処分することの大切さを実感した」と話した。



分別処分の大切さを実感した